

田んぼに投げ込むカリとケイ酸!

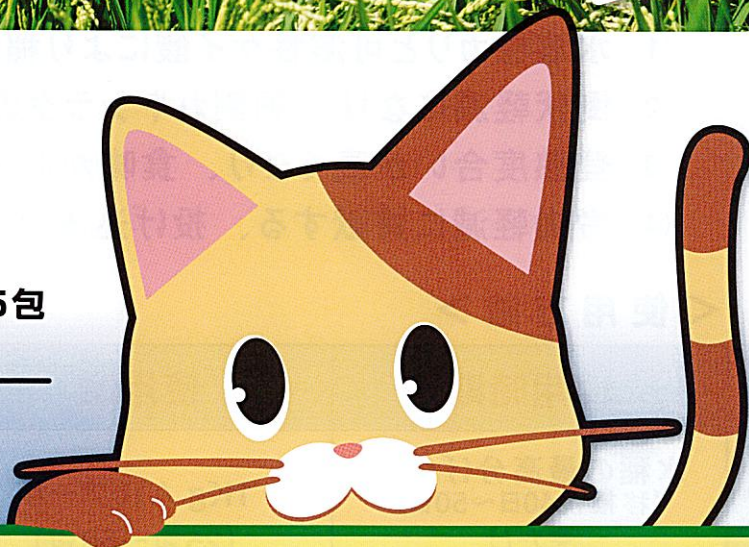
水稻追肥用投げ込み肥料

メイトーなげこみ

ネコみみ立てた!



40g×25包
=1Kg入



!つかいかた

- ① 中干し前後、水を張ってご使用ください
 - ② 畦から1kgを均一に投げ込んでください
 - ③ 投げ込み後は4日間止水してください
- ※ 開封後は速やかに使い切ってください

MCE 名東ケミカルエンジニアリング株式会社

名古屋市中区錦1-13-19 名錦ビル 4階
H P : <https://meito-chem.co.jp/> TEL 052 (218) 6023



効果や実例はこちらからご覧ください! ▶▶▶



水稻追肥
投げ込み肥料

メイトーなげこみ ネコみみ立でた!

入目:1Kg (40g×25包) アルミ袋封入

< 保証成分値 >

水溶性カリ	可溶性ケイ酸	水溶性ホウ素
20%	10%	0.5%

< 特長 >

- ① 水溶性カリと可溶性ケイ酸により稲の発根と分けつを促します。
- ② 倒伏軽減になり、胴割れやシラタの発生を減少させます。
- ③ 登熟度合いが高くなり、食味が向上するとともに収量も増加します。
- ④ 労働軽減に貢献する、投げ込みパック材です。

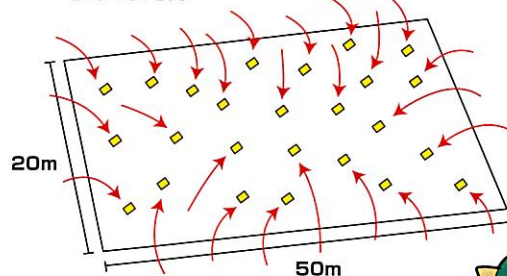
< 使用方法 >

使用時期	使用量	注意点
水稻の最高分けつ期 (移植後40日~50日) または 出穂 14日~30日前 (入水中)	1Kg / 10アール (25包~50包) 圃場に均一に投げ込む	水田圃場の周囲から均一に投げ込む。 水深5cm以上で使用すること。 投げ込み後、4日は止水すること。

水稻におけるカリはタンパク質の合成に必要で、一生のうちで窒素含量が最も高い最高分けつ期と幼穂形成初期に欠乏が起きやすいことが知られています。一方でケイ酸の吸収量は幼穂形成期以降に多く、その吸収量は60%を占め、移植期から有効分けつ期までの水稻のケイ酸吸収速度は遅いのですが、幼穂形成期以降から成熟期にかけて急速にケイ酸を吸収するといわれています。

こうしたことから、この幼穂形成期にカリとケイ酸を合わせて効かせることが、収量や食味・品質を良くするためには有効なのです。

< 散布の参考例 >



均一な投げ込みが不安な場合は少なめに投げ込み、残りを不足と思われる部分に投げ込むと均一性が高まります

止水をして圃場の周辺を回りながら6包ずつ投げ入れます。無理に遠くまで投げる必要はありません。



「ネコミミ立てた！」の効果イメージ図

施肥

<施肥の効果>

根張り
促進

倒伏
軽減

茎を太
くする

高温障
害対策

<玄米への効果>

品質の向上・収量の向上

「ネコみみ立てた！」における加里の役割

根重量の増加

毛細根の増加

茎も太くなる！！

根張りが良くなる

「ネコみみ立てた！」におけるケイ酸の役割

細胞壁
強化

加里の
役割を
補完

茎を太く
する！！

左：ネコミミ立てた！無施肥区
右：ネコみみ立てた！施肥区
品種：コシヒカリ

倒伏軽減



「ネコみみ立てた！」施肥時のメリット

短時間で
施肥可能

動力散布機を
担ぐ必要なし

圃場内に入り
施肥の必要なし

※圃場の形にもよる。
※長方形の5反くらいまで
の圃場なら可能

楽々！

お手軽！

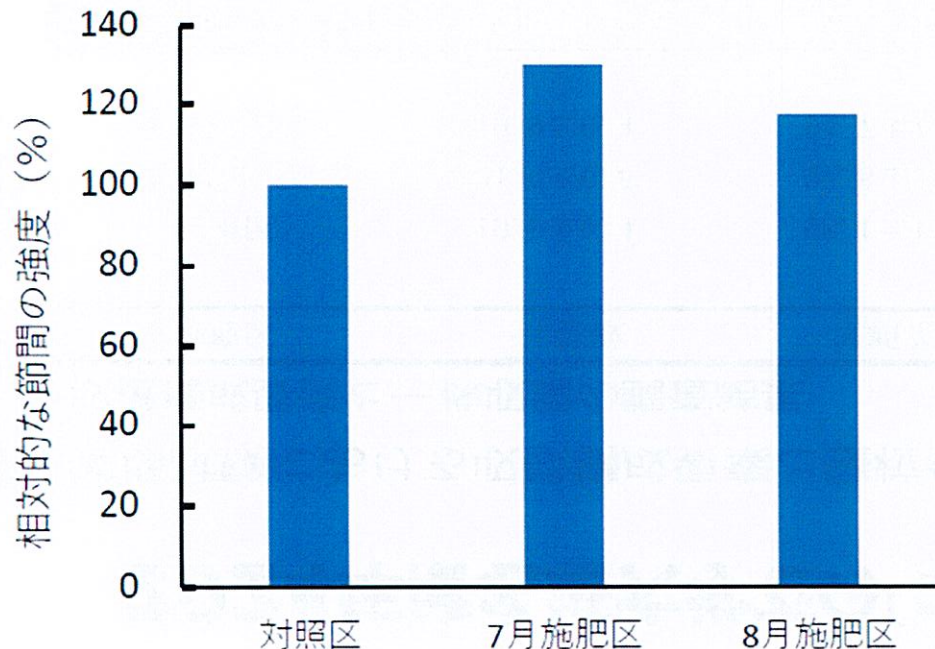
施肥時の労力省力化

2024年度名城大学での「ネコみみ立てた！」施肥試験結果

5. 圃場試験の概要

- 1) 供試材料 「あいちのかおり」
- 2) 栽培暦 2024年6月11日 水田へ苗の移植（30日齢苗、栽植密度：条間30 cm、株間18 cm）
7月23日 7月施肥区に「ネコみみ立てた」を施肥
8月5日 中干し開始（～16日まで）
8月19日 8月施肥区に「ネコみみ立てた」を施肥
8月30日頃 出穂期
10月15日 収穫
- 3) 基肥 側条エース スーパーL（N:P:K = 34:3:3） 15 kg/10 a
- 4) 処理区設定 対照区：基肥のみ
7月施肥区：7月23日に「ネコみみ立てた」を施肥
8月施肥区：8月19日に「ネコみみ立てた」を施肥

6. 圃場試験における節間の折れ性



出穂10日後の第4節間における強度の相対値

フォースゲージにより各区8株の第4節間の強度（挫折時モーメント）を測定した。対照区の値を100とした相対値を示す。

ネコみみ立てたの施肥により水田で栽培したイネにおいても稈の強度が増加する傾向となり、特に最高分けつ期に施肥した7月施肥区においてその傾向が強かった。

2024年度名城大学での「ネコみみ立てた！」施肥試験結果

7. 圃場試験における収量構成要素と整粒歩合

収量構成要素と一株収量の調査結果

処理区	一株穂数	一穂穎花数	登熟歩合	精玄米百粒重	一株収量
			%	g	g 株 ⁻¹
対照区	19.9±0.4	98.1±1.9	74.8±2.4 b	2.342±0.025	6.98±0.13 b
7月施肥区	21.0±0.5	97.8±2.9	81.0±0.9 a	2.285±0.024	8.41±0.45 a
8月施肥区	19.9±0.4	94.7±1.8	79.9±0.7 ab	2.303±0.013	7.20±0.26 b
	n. s.	n. s.		n. s.	

数値は8株の平均±は標準誤差を示す。異なるアルファベットで示された処理区間は、Tukey法により5%水準で有意差があることを示す。n. s. は一元配置分散分析により処理区間に有意差がないことを示す。

整粒歩合および白未熟粒・被害粒の割合

処理区	整粒	不完全粒		
		白未熟粒	被害粒	計
	%	%	%	%
対照区	50.0±2.9 b	29.8±2.7 a	20.3±2.9	50.0±2.9 a
7月施肥区	65.5±1.7 a	15.6±1.7 b	18.4±1.5	34.5±1.7 b
8月施肥区	59.8±2.1 a	17.5±2.3 b	22.8±2.5	40.3±2.1 b
			n. s.	

7月施肥区では穂数と登熟歩合の増加により1株収量が他の処理区より多くなった。また、7月施肥区と8月施肥区ともに対照区よりも整粒歩合が有意に高くなった。